資料№.1

令和８年度 第１回登米農業改良普及センター普及活動検討会

日　時：令和８年９月２日（水）
　　午後１時３０分～４時
場　所：登米合同庁舎２階 203 会議室
　　中田町現地ほ場

次　　第

１　開　　会

２　あいさつ

３　現地視察（中田町きゅうりハウス）

４　委員・職員紹介，検討会の進め方について

５　活動紹介
（１）令和８年度普及指導計画について

（２）プロジェクト課題 No. １
「次代を担うきゅうり生産者のステップアップによる生産性向上」について

（３）プロジェクト課題 No. ２
「水稲低コスト・省力化栽培技術導入による担い手の法人化及び組織の経営安定」について

（４）プロジェクト課題 No. ３
「環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立」について

６　総合検討（普及活動全般に対する意見交換）

７　閉　　会

出　席　者　名　簿

	所　属　・　職　名　等	氏　　名	備　考
1	登米市農業士会　会長	大立目　忠　徳	
2	有限会社 三菜寿　代表取締役	中　澤　　宏	
3	登米市農業委員	鹿　野　昭　子	
4	株式会社 登米コミュニティエフエム　代表取締役	斉　藤　恵　一	
5	みやぎ生活協同組合　理事	目　黒　純　栄	
6	登米市産業経済部　次長兼産業総務課長	佐　藤　貴　光	
7	みやぎ登米農業協同組合営農部　営農企画課長	佐　々　木　晋	
8	宮城県農政部農業振興課	菊 地　友 佳 里	
9	登米地域事務所農業振興部　地域調整班　次長（班長）	川　村　静　江	
10	登米農業改良普及センター　所長	板　橋　慎　幸	
11	〃　　総括次長	伊　藤　尚　美	
12	〃　　総括技術次長	宍　戸　嘉　克	
13	〃　　技術次長(経営支援担当)	遠　藤　弘　樹	
14	〃　　地域農業班　技術次長（班長）	須　藤　邦　彦	
15	〃　　地域農業班　技術次長	田　中　正　義	
16	〃　　地域農業班　技師	木　村　優　太	
17	〃　　地域農業班　会計年度任用職員	大　庭　康　彦	
18	〃　　先進技術班　技術主幹（班長）	阿　部　定　浩	
19	〃　　先進技術班　技術次長	清　水　俊　郎	
20	〃　　先進技術班　技術主査	加　茂　純　子	
21	〃　　先進技術班　技術主査	正　井　　佑	
22	〃　　先進技術班　技師	畠　山　清　陽	

資料３

R8.4.1

登米農業改良普及センター　令和8年度普及指導計画の概要

～　登米の恵みを未来へつなぐ。新時代の「人」と「技」のバトンリレー　～

農業施策及び普及事業に関する中・長期計画、方針等

みやぎ食と農の県民条例基本計画
（R3-12、R8.3中間見直し）

共創力強化

～　多様な人材が豊かな未来をつくるみやぎの食と農　～

Ⅰ　時代のニーズに対応した県産食品の安定供給（豊かな食）
- 施策1　県民による豊かなみやぎの食と農への理解と地産地消の促進
- 施策2　市場ニーズの変化に対応する県産食品の販売力強化
- 施策3　県民への安全・安心な食料の安定供給

Ⅱ　次代の人材育成と革新技術の活用による戦略的な農業の展開（儲ける農業）
- 施策4　環境との調和に配慮した持続可能な農業の推進
- 施策5　みやぎの農業を支える多様な人材の確保・育成
- 施策6　先進技術等を活用した農業生産の効率化と高度化
- 施策7　基盤整備と集積・集約化による農地利用の高度化
- 施策8　需要に応じた米生産と水田農業の収益力強化
- 施策9　先進的大規模拠点を核とした園芸産地の確立
- 施策10　生産基盤の拡大による畜産の競争力強化

Ⅲ　ひと・もの・ちえを総動員した持続可能な農村の構築（活力ある農村）
- 施策11　関係人口と共に創る活力ある農村
- 施策12　地域資源を活用した多様ななりわいの創出
- 施策13　野生鳥獣による農作物被害対策の強化とジビエ利活用の拡大
- 施策14　地域資源の保全管理による営農・農村環境の維持
- 施策15　農業・農村の強靭化による地域防災力の強化




みやぎ園芸特産振興戦略プラン
（R8-12）

先進的園芸経営体と共に切り拓く
新しいみやぎの園芸産地の確立

～　みやぎの園芸倍増に向けて　～

基本方針1　先進技術を駆使した施設園芸の推進
基本方針2　大区画ほ場等を活用した露地園芸の推進
基本方針3　食品関連産業等との連携による園芸サプライチェーンの構築
基本方針4　園芸産地の発展に向けた多様な人材等の確保・育成

【県最重点振興品目】
いちご
【県重点振興品目】
きゅうり、トマト、ほうれんそう、ねぎ類、パプリカ
たまねぎ、キャベツ、えだまめ、ばれいしょ、レタス、せり
さつまいも、ブロッコリー
輪ぎく、スプレーぎく、鉢もの類・花壇用苗もの類
日本なし、りんご、ぶどう
【登米地域振興品目】
そらまめ、なす、かぼちゃ、ゆきな、にら、にんにく
ピーマン類、トルコギキョウ、ストック、もも

登米地域普及指導基本方針
（R8-12、R8.3改正）

Ⅰ　農業及び農村の将来方向

以下に取り組み、登米圏域の地域性を活かした、新たな魅力ある農業・農村の構築を目指す。

1　登米農業を担う次代の人材確保・育成と先進技術等を活用した農業生産の効率化・高度化
2　豊かな経営資源を活かした農業生産の拡大や時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給
3　多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農村づくり

Ⅱ　普及事業で取り組む課題

1　登米農業を担う次代の人材確保・育成と先進技術等を活用した農業生産の効率化・高度化

(1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援
(2) 新たな担い手の確保・育成と多様な人材の活躍支援
(3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援

2　豊かな経営資源を活かした農業生産の拡大や時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

(1) 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援
(2) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援
(3) 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援
(4) 食と農への理解促進と安全・安心な農畜産物生産の取組支援
(5) 需要の変化に対応したマーケットインの生産体制の構築・販路拡大への取組支援

3　多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・関係機関との連携による持続可能な農村づくり

(1) 地域資源や地域の特色を活かした営農・所得確保等に向けた取組支援
(2) 関係機関等との連携強化と合意形成推進による地域農業の維持・発展支援
(3) 大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援

（県）

協同農業普及事業の実施に関する方針
（R7.11）

1　みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化
2　時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給
3　多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

（国）
協同農業普及事業の運営に関する指針　（運営指針）
協同農業普及事業の実施についての考え方　（ガイドライン）
通知

普及指導方針

1　登米農業を牽引する活力ある経営体の育成

■認定農業者や農業法人等地域の担い手となる経営体の経営高度化や経営継承等に向けた取組を支援

■新たに農業経営を営もうとする青年等の確保・育成及び女性の活躍に関する取組を支援

2　先端技術を活用した農業生産の高度化、効率化の推進

■収益性の高い農業経営の実現を図るため、土地利用型農業、施設園芸、畜産等の各分野において、アグリテックの導入・定着に向けた取組を支援

■県が整備したＲＴＫ基地局を活用する取組を支援

3　豊かな経営資源の活用や環境に配慮した取組による農業生産の拡大や産地の育成

■収益性の高い水田農業の展開や、畜産経営の収益力強化の取組を支援

■園芸産出額の増大を図るため、登米地域の重点振興品目の生産拡大や生産体制の強化に向けた取組を支援

■「宮城県みどりの食料システム戦略推進基本計画」に基づき、環境負荷低減に資する持続可能な農業生産の取組を支援

4　魅力あふれる農業・農村の創造

■地域資源を活かした「なりわい」の創出による雇用機会の拡大や所得確保の取組を支援

■農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮に向けた取組を支援

プロジェクト課題

対象や期間を明確にして効率的、効果的に支援

No1　次代を担うきゅうり農家のステップアップによる生産性向上

計画期間　令和8年度～令和10年度　　新規

対　　象　JAみやぎ登米胡瓜部会青年部会員（31経営体）

概　　要　令和10年きゅうり販売額10億円の目標達成に向け若手生産者の技術力向上、環境制御技術の導入等による収量向上支援を行う。



活動事項　・栽培技術習得支援
・環境制御技術取組支援
・部会活性化支援

No2　水稲低コスト・省力化栽培技術導入による担い手の法人化及び組織の経営安定

計画期間　令和8年度～令和10年度　　新規

対　　象　東和町内ノ目地区の担い手4人

概　　要　令和8年度農地整備事業採択予定の東和町内ノ目地区の担い手経営体を対象に、法人の設立、水稲の低コスト栽培技術等の支援を行う。



活動事項　・法人設立支援（事業計画、作業計画検討）
・低コスト・省力化水稲栽培技術の選択・導入支援
・高収益作物栽培支援

No3　環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立

計画期間　令和7年度～令和8年度

対　　象　環境負荷低減型乾田直播栽培に取組む2法人
((有)かわつらグリーンサービス、(農)SK美野里農産)

概　　要　乾田直播栽培の環境保全米適応に向けて
環境負荷低減型の栽培体系を確立する。




活動事項　・施肥及び除草体系の検証
・省力化技術の導入・活用支援

調査研究

各普及指導員が地域の特性に応じて農業に関する高度な技術や知識を組み立てて実証し、成果を普及活動に活用

（令和8年度の取組）
- 新たな仕組み「地域まるっと中間管理方式」の推進
- 「にじのきらめき」の乾田直播栽培における生育把握
- 大豆栽培における除草剤体系処理の効果検証
- ばれいしょの生育に関する土壌水分および土壌理化学性の影響把握
- きゅうりにおける耐病品種の検討
- トルコギキョウ栽培における病害虫発生動向の把握と対策の検討
- シャインマスカットの安定生産に向けたジベレリン1回目処理適期の検討

普及センター活動

■　重点活動
- プロジェクト課題への助走および終了課題へのフォローアップ活動
- 一般活動の中で、必要性や緊急性が高い者へ支援を行う活動

（1）登米地域の農業を支える担い手の確保・育成、女性農業者の活躍支援
（2）地域計画の実現に向けた支援
（3）登米地域園芸重点品目の生産振興
（4）持続性の高い畜産経営基盤の確立及び耕畜連携による堆肥等の有効活用支援
（5）持続可能な食料システムの構築に向けた支援

■　一般活動
- 農業者や地域のニーズに応じて、技術支援、農業経営、農村生活、新規就農などについて、巡回指導や相談対応を行う活動
- 対象が広範囲、不明確、熟度が不十分なものへ支援を行う活動

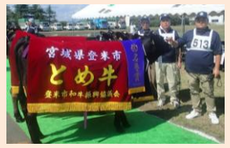
1　登米農業を牽引する活力ある経営体の育成
（1）先進的農業に取り組む経営体の育成支援
（2）地域農業を担う集落営農組織の育成支援
（3）生産性の高い土地利用型農業の推進
（4）アグリビジネス経営体等の育成支援
（5）青年農業者の確保育成
（6）青年農業者の組織活動支援
（7）女性農業者の資質向上支援
（8）農業士活動支援
（9）農業情報の発信

2　先端技術を活用した農業生産の高度化、効率化の推進
（10）スマート農業の導入による安定生産支援

3　豊かな経営資源の活用や環境に配慮した取組による農業生産の拡大や産地の育成
（11）環境にやさしい農産物等の生産支援
（12）水田農業の収益力強化に向けた支援
（13）基本技術の徹底による高品質米・良食味米の安定生産支援
（14）新規需要米等の安定生産支援
（15）麦・大豆の安定生産支援
（16）優良種子の安定生産支援（水稲、麦、大豆）
（17）野菜の安定生産支援
（18）果樹の安定生産支援
（19）花きの安定生産支援
（20）畜産の生産技術支援
（21）農業生産工程管理（GAP）の取組支援
（22）安全・安心な農畜産物の生産支援

4　魅力あふれる農業・農村の創造
（23）中山間地域の振興
（24）地域資源を活かした地域活性化支援
（25）生産者と消費者の相互理解促進活動への支援
（26）農作物への鳥獣被害防止支援
（27）農作業安全の推進



Ⅱ　普及指導員活動計画

1　プロジェクト課題一覧表

No.	プロジェクト課題名	計画期間	対象（対象経営体・地域名等）	担当チーム員
1	次代を担うきゅうり生産者のステップアップによる生産性向上 **＜「園芸振興」関連課題＞**	令和８年度 ～ 令和 10 年度	JA みやぎ登米胡瓜部会青年部会員（31 人）	◎正井 板橋 伊藤 田中 佐藤
2	水稲低コスト・省力化栽培技術導入による担い手の法人化及び組織の経営安定 **＜「地域計画」関連課題＞**	令和８年度 ～ 令和 10 年度	東和町内ノ目地区の担い手 ４人	◎須藤 遠藤 田中 清水 木村 畠山
3	環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立 **＜「みどりの食料システム戦略」「スマート農業」関連課題＞**	令和７年度 ～ 令和８年度	環境負荷低減型水稲乾田直播栽培に取り組む生産法人 （(有)かわつらグリーンサービス、(農)SK 美野里農産）	◎阿部 宍戸 遠藤 加茂 畠山

◎：チームリーダー

（年度様式２）　プロジェクト課題計画

課題Ｎｏ．１			
課題名　次代を担うきゅうり生産者のステップアップによる生産性向上（「園芸振興」関連課題）			
計画期間	令和８年度～令和 10 年度		
対象名及び対象者数	ＪＡみやぎ登米胡瓜部会青年部会員（31 人）		
課題の背景	・登米市のきゅうりは、夏秋・冬春きゅうりで国の指定産地になっている。ＪＡみやぎ登米胡瓜部会員は令和７年現在 106 人で、販売額は令和７年で８億７千万円ほどである。 ・ＪＡみやぎ登米では、「営農経済事業活性化プログラム」を令和７年９月に策定し、きゅうりを重点品目とし、栽培技術の向上、新規生産者の確保による面積拡大等の取組、環境制御技術の推進により、令和 10 年までに販売額を 10 億円とする目標を設定している。 ・令和６・７年の高温により収量が全体的に落ち込み、胡瓜部会全体の収量は、令和６年は 2,877ｔ、令和７年は 2,647ｔと低迷した。 ・胡瓜部会には、20～40 代が中心の青年部会があり、販売額の半分を占めている。青年部会員の平均収量は、令和７年で 15.7ｔ／10ａ（JAﾃﾞｰﾀ）となっており、販売額の 10 億円達成に向けては、栽培基礎技術の向上による収量の底上げが必要である。 ・高収益を見込める環境制御技術について、導入経費が高く一部の生産者にとどまっている。取組の機会を広げるため、低コストで行える環境制御技術の普及拡大が求められる。 ・管内は他産地と比べ、苗生産、協同選果場など、きゅうり生産に有利な環境がある。面積拡大と部会の活性化に向け、新規生産者（新規就農者、農業法人等）確保・育成支援が求められている。		
活動の概要	・栽培基礎技術習得に向けた支援を実施する。 ・環境制御技術の取組を推進する。 ・新規生産者の確保等による栽培面積拡大の取組や部会の活性化を支援する。		
計画完了時に期待される対象の変化	・基礎栽培技術の向上及び環境制御技術の導入が図られ、生産意欲が高まり、収量が増加する。		
担当チーム員	○正井、板橋、伊藤、田中、佐藤	進行管理責任者	伊藤

令和８年度		
成果指標	定性的目標 ・栽培技術における課題が共有され、次作の改善に向けた取組が図られる。	
	定量的数値目標 対象者の 10ａ当たり収量　R7 15.7ｔ → R8 16ｔ → R9 16.5ｔ → R10 17.3ｔ	
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数 88 日）	
	活動事項 ・栽培基礎技術習得支援（52 日） ・環境制御技術取組推進（20 日） ・部会活性化支援（16 日）	
関係機関の主な役割分担項目 ＪＡみやぎ登米（生産者との調整・営農指導） 宮城県園芸推進課（補助事業導入・計画調整） 登米市（補助事業導入検討・調整）		
関連事業名と役割　環境と高温に適応した施設園芸展開事業（園芸推進課）		
県実施方針上の関連項目	1-(3)　先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援 1-(5)　園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援	
地域基本方針上の関連項目	1-(3)　先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援 2-(2)　園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援	

中間評価表（様式１）

課題NO.１・次代を担うきゅうり生産者のステップアップによる生産性向上
期間　令和８年度～10年度
担当チーム員　◎正井佑、板橋慎幸、伊藤尚美、田中正義、佐藤優衣　記述者：正井佑
対象名及び対象数　ＪＡみやぎ登米胡瓜部会青年部（３１経営体）

８月中間評価

（１）活動指標：普及活動の進捗状況等（月次活動計画の進捗度）

①進行管理責任者　伊藤尚美
②合計総現地活動日数（58日／内計画日数48日）
③活動指標ごとの活動日数
・栽培基礎技術習得支援（40日／内計画日数26日）
・環境制御技術取組推進（13日／内計画日数12日）
・部会活性化支援（5日／内計画日数10日）

（２）成果指標：定性的目標及び所見

＜設定した目標＞
・栽培技術における課題が共有され、次作の改善に向けた取組が図られる。

＜設定した目標に対する所見及び課題＞
（栽培基礎技術習得支援）
・部会員のほ場を巡回し、栽培指導を実施した。巡回を通して、水管理など部会員の技術力向上に繋げることができた。技術力が高い部会員もいる一方で、基本的な管理が疎かになっている部会員もおり、部会員ごとの技術力には大きな乖離があったため、特に栽培技術に課題がある部会員への支援方法について検討する必要がある。
・昨今の高温対策として、園芸推進課と連携し、部会員２名を対象に、遮熱剤の塗布試験を開始した。経過段階ではあるが、塗布前や対照区と比べ、体感的にもかなり涼しいとのことであり、効果は十分に期待できる。ただし、導入コストはかなり大きく、２名ともコスト面を懸念しており、今後、遮熱効果やコスト等を検証予定。
（環境制御技術取組推進）
・環境制御技術の興味関心が高まっており、モニタリング装置や、ミスト装置を導入した部会員らがいる。一方で、資材・機械価格の高騰により、大規模な環境制御装置を導入するハードルは非常に高くなっている。低コストで取り組める簡易的な環境制御技術の普及拡大が求められている。
（部会活性化支援）
・ＪＡと、胡瓜部会の活性化に向け、ＪＡと現況の把握と課題の共有を行った。ハウス建設の資材価格の高騰や、空きハウスのマッチングの難しさから、施設園芸にゼロから新規参入するのは厳しい状況となっている。
・新規生産者確保のため、主に親元就農など、今後きゅうり栽培に取り組む可能性の高い人へ提供する経営指標の作成に向け、情報収集をすすめていく。

（３）今後の対応・月次活動計画の見直し等

（栽培基礎技術習得支援）
・栽培技術（水管理等）に係る現地指導、研修会の開催
・高温対策に係る遮熱材の効果検証、実績検討会の開催
（環境制御技術取組推進）
・管内導入事例調査
・先進地視察研修に係る助言・同行等
（部会活性化支援）
・経営指標となるデータ等の収集
・ＰＲ資料作成準備

月次活動計画の見直しの必要性（　有　・　(無)　）

※見直しの必要性がある場合は、見直した月次活動計画を添付する。

（４）対象からの意見及び評価

・今年度は講習会や現地検討会での講師対応により、部会員全体に指導が行き届いているためありがたい。引き続きの栽培指導や、農薬・資材・技術の新情報提供を積極的にお願いしたい。
・高温対策の遮熱剤の効果がどうなるか気になる。効果検証が有益であることを期待する。価格が高すぎるため、一般農家でも活用がしやすい方法を検討してほしい。
・過去から資材価格が高騰しており、新規就農者が自前で施設備品を用意するのは非常に困難であり、施設園芸に取り組みにくい環境になってきている。施設園芸で活用しやすい補助事業があるととても助かるため、本庁と連携して取り組みを進めてほしい。

（ＪＡみやぎ登米　胡瓜部会青年部員）

プロジェクト課題計画

課題Ｎｏ．２			
課題名　水稲低ｺｽﾄ・省力化栽培技術導入による担い手の法人化及び組織の経営安定（「地域計画」関連課題）			
計画期間	令和８年度～令和 10 年度		
対象名及び対象者数	東和町内ノ目地区の担い手４人		
課題の背景	・平成 27 年からの準備を経て、令和８年度に農地整備事業の採択を受ける見込み（事業期間 R8～R16 総事業費約 12 億円 受益面積 26.6ha 受益戸数 68 戸 認定農業者３戸）。 ・農地整備事業完了後、受益面積 26.6ha の内、約 90%が担い手法人に集積され、ｽﾏｰﾄ農機等導入による水稲・野菜（ねぎ、にんにく、ﾄﾏﾄ）等の生産性向上・省力化を図る計画。 ・担い手法人設立に向け、認定農業者２戸、兼業農家２戸合計４戸で令和８年１月設立に向けて検討を進めたが、事業目論見書の作成が滞り設立を令和８年 12 月に延期した。 ・高収益作物は、認定農業者が個人的に加工用ﾄﾏﾄ、ｻﾂﾏｲﾓの試作に取組んだが、水稲の田植え作業が重なり、加工用ﾄﾏﾄ、ｻﾂﾏｲﾓの育苗・定植作業が適期に行えず、さらに夏の高温乾燥による水不足の影響で、想定の収量・品質が確保できていない。 ・法人の総営農面積は 50ha 程度を予定（工区内 24ha、工区外 26ha）。事業完了までは工区外の農地で法人運営計画のため、水稲の生産性向上と経費削減が重要な課題。（登米市の水稲平均単収は 600kg、対象者の平均単収は 480kg と平均よりも低い収量） ・地域初の法人設立のため、十分な経営試算・作業計画と、水稲の低ｺｽﾄ栽培（例：ﾌﾟｰﾙ育苗、密苗、乾田直播、ﾄﾞﾛｰﾝ播種・防除等）、高収益作物の技術指導が求められている。		
活動の概要	・法人の設立及び組織運営の支援を行う。 ・水稲の低コスト・省力化栽培の導入と技術の安定化支援を行う。 ・高収益作物の栽培技術向上支援を行う。		
計画完了時に期待される対象の変化	・構成員の作業役割分担の明確化により作業の効率化が図られる。 ・低コスト・省力化稲作栽培技術が定着する。 ・高収益作物の栽培技術が習得され生産性が向上する。		
担当チーム員	◎須藤、遠藤、田中、清水、木村、畠山	進行管理責任者	遠藤

令和８年度		
成果指標	定性的目標 ・設立される法人構成員の役割分担が明確になる。 ・低コスト稲作技術の選定と高収益作物の栽培技術向上が図られる。	
	定量的数値目標 低コスト・省力化稲作栽培技術の導入 Ｒ７　０→Ｒ８　０→Ｒ９　１→Ｒ10　３ （　０）	
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数　58 日）	
	活動事項 ・法人設立への支援　　（26 日） ・低コスト・省力化稲作栽培技術の選択・導入支援　（14 日） ・高収益作物栽培支援　（18 日）	
関係機関の主な役割分担項目　東和土地改良区（農地整備事業推進全般）、ＪＡみやぎ登米（法人設立支援、水稲、野菜等技術支援）、登米市（農地整備事業推進）、宮城県農業経営・就農支援センター（専門家派遣、法人設立支援）、農業振興課（ｽﾏｰﾄ農業支援）、東部地方振興事務所農業農村整備部（農地整備事業推進）、登米地域事務所農業農村整備部（農地整備事業工事管理）		
関連事業名と役割　農業競争力強化農地整備事業（中山間地域型）		
県実施方針上の関連項目	1-(1)　先進的経営体や核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化 1-(3)　先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援	
地域基本方針上の関連項目	1-(1)　先進的経営体や核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化 1-(3)　先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援	

中間評価表（様式１）

課題NO.2・水稲低コスト・省力化栽培技術導入による担い手の法人化及び組織の経営安定
計画期間　令和８年度～令和10年度
担当チーム員：◎須藤、遠藤、田中、清水、木村、畠山　　記述者：須藤
対象名及び対象数　東和町内ノ目地区の担い手４人

８月中間評価

（１）活動指標：普及活動の進捗状況等（月次活動計画の進捗度）

①進行管理責任者　総括次長　遠藤
②合計総現地活動日数（６３日／内計画日数３８日）
③活動指標ごとの活動日数
・法人設立への支援（１６日／内計画日数１６日）
・低コスト・省力化稲作栽培技術の選択・導入支援（１１日／内計画日数８日）
・高収益作物栽培支援（３６日／内計画日数１４日）

（２）成果指標：定性的目標及び所見

＜設定した目標＞
①設立される法人構成員の役割分担が明確になる。
②低コスト稲作技術の選定と高収益作物の栽培技術向上が図られる。
＜設定した目標に対する所見及び課題＞
（法人設立への支援）
・対象者への訪問をはじめ、昼夜を問わず話合いに参加し、法人タイプごとの特徴やメリット・デメリット等について紹介・説明し、意見交換を重ねた。
・対象者が、一般社団法人の設立を選択した段階で、法人設立までのスケジュール表を作成。「何を、いつまでに」を対象者はもとより関係機関にも説明。みんなで意識の統一・共有、連携をはかりながら進めた。また、地域の地権者の方々から理解・協力、合意を得るため、地権者説明会のあり方やその運営を支援するとともに、専門家（司法書士、税理士）の活用・派遣について支援した。
・その結果、県内において初となる、一般社団法人「Ｇ．ＣＡＴ」（名称：グリーンキャタピラー）が設立された（７月31日）。
・対象者４人が、代表理事１人、理事２人、監事１人の役員に就任。今後、中小企業診断士や社会保険労務士などの専門家から具体の運営等について指導を受ける。
（低コスト・省力化稲作栽培技術の選択・導入支援）
・省力稲作栽培技術として、スリップローラーシーダーによる乾田直播技術等の導入を紹介。
・実演会や先進地視察に参加を促したが、春先は多忙なため参加が叶わないことから、普及員が実演会に参加し動画を撮影。
・この動画を対象者の集まりで上映したところ、非常に興味を持ってもらえたので、令和９年度には対象地区で実証ほ場を設置する予定。
（高収益作物栽培支援）
・高収益作物として加工用トマトを栽培（２年目）。カゴメ株式会社のフィールドマネージャーと普及センターが連携し適宜現地指導を行った。生育は良好で、収量・品質共に期待が高まったが、８月上旬の大雨による北上川の増水でトマトほ場が冠水し収穫不可（９０ａ）となった。

（３）今後の対応・月次活動計画の見直し等

・計画よりも前倒しで法人は設立されたが、合わせて取り組む予定の「地域まるっと中間管理方式（農地バンクの活用）」及び農地集約化促進事業の準備や関係機関との連携が重要となるので、こちらも遅れないように進捗管理を行う。
・稲刈り終了後に低コスト技術の導入に向けた打ち合わせを行う。合わせて３月に乾田直播の実演会と試験ほ場設置に向けて準備を進める。加工用トマトは収穫不可となったので実績検討はできないが、育苗から生育期間中の作業内容などを振り返り、ほ場の選定を含めて次年度の栽培計画を検討する。

月次活動計画の見直しの必要性（　有　・　無　）

※見直しの必要性がある場合は、見直した月次活動計画を添付する。

（4）対象からの意見及び評価

法人設立までの支援に感謝。地域まるっと中間管理方式の導入まで継続支援を希望する。
水稲の低コスト技術導入、加工用トマトの栽培どちらも法人の収支に影響するので、今後も応援してもらいたい。（一般社団法人Ｇ．ＣＡＴ　代表理事）

プロジェクト課題計画

課題Ｎｏ．３			
課題名　環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立 （「みどりの食料システム戦略」及び「スマート農業」関連課題）			
計画期間	令和７年度～令和８年度		
対象名及び対象者数	環境負荷低減型水稲乾田直播栽培に取組む生産法人２法人 （（有）かわつらグリーンサービス、（農）SK 美野里農産）		
課題の背景	・登米地域では環境保全米※1 の栽培面積が県内１位であるが、担い手の減少や需要に応じた米の生産により、面積は年々減少している。一方で管内では、担い手の減少等により省力化技術として乾田直播栽培（以下：乾直）に取組まれ、今後も確実に増加することが見込まれている。現行では直播栽培は環境保全米の適用とならないことから、乾直での環境保全米の適用を期待する声がある。そのような中、令和６年 11 月「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」において、乾田直播栽培に減農薬・減化学肥料栽培の新たな基準（農薬成分 10 成分以下、化学由来窒素 6kg/10a 以下）が設定された。 ・JA 全農みやぎでも、新たな基準に準ずる形で、環境負荷低減型※2 水稲乾田直播培技術展示ほを設置することとなった。展示ほを設置する(有)かわつらグリーンサービスは、水稲の面積拡大に伴い以前から乾直に取り組んでいるが、環境負荷低減型での乾直は初めてであり、JA みやぎ登米からも技術支援が求められていることから、栽培指標の作成が必要となっている。 ・対象となる２法人では、経営体の担う面積の拡大や従業員の雇用により、ほ場の場所や作業状況の情報共有、各ほ場の生育状況の把握などの効率化が求められる。また、栽培面では生育後半の肥料切れや除草体系などの課題があり、環境負荷低減型水稲乾田直播栽培においても、AI を活用した適期防除や衛星画像による生育状況の把握により、課題解決へ向けた支援が求められることからアグリテックの導入に向けた支援が必要である。 ※1 指定された資材を用い、県慣行栽培の 1/2 以下の農薬及び化学合成由来窒素量で栽培され、第三者機関からの認証を受けたもの（Ｃタイプ）。※2 県慣行栽培の 1/2 以下の農薬及び化学合成由来窒素量で栽培されたもの。 (前年度までの実施状況と今後の改善方向) ・新たな基準に則した展示ほを２か所設置し、移植栽培の環境保全米（C タイプ）とほぼ同等の収量、品質を得ることができた。ただし、漏水や過度な中干しにより雑草の発生が見られたため、次作では漏水対策や水管理の徹底を図る。前年度の展示ほの結果をもとに、栽培指標の素案の作成を行った。今年度も展示ほを設置し、栽培指標の内容について精査を行う。 ・新たな基準内で可変施肥実証ほを１か所設置。地力が低い部分に施肥量を多めにしたものの、生育後半に肥料切れが生じ、収量・品質ともにやや低下したが、可変施肥を実施しなければさらに収量・品質が低下したことが想定され、一定の補完効果があったと考えられた。次年度は追肥体系（基肥：N５kg/10a、追肥：N１kg/10a）を可変施肥で実施予定。 ・スマート農業セミナー等の情報提供により、スマート農業技術の導入意欲が高まり、対象１法人で営農管理システムを導入予定。継続してフォローアップを行う。		
活動の概要	・展示ほを１か所設置し、生育調査等を行い、調査結果を参考に栽培指標の作成を行う。 ・栽培管理システムを導入し、リモートセンシングによる生育状況の把握や生育予測に合わせた適正管理支援を行う。また、可変施肥実証ほを１か所設置し、生育の均一化を図る。		
計画完了時に期待される対象の変化	環境負荷低減型の水稲乾田直播栽培技術が確立し、対象者の作付拡大の意欲が高まる。		
担当チーム員	◎阿部、宍戸、遠藤、加茂、畠山	進行管理責任者	宍戸

令和８年度				
成果指標	定性的目標 環境負荷低減型の水稲乾田直播栽培技術が確立し、対象者の作付拡大の意欲が高まる。			
	定量的数値目標	Ｒ６	→ Ｒ７	→ Ｒ８
	環境負荷低減型乾田直播栽培の栽培指標作成	０	０（０）	１
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数　68 日）			
	活動事項 ・施肥および除草体系の検証（32 日） ・省力化技術の導入・活用支援（36 日）			

関係機関の主な役割分担項目
JA みやぎ登米（生産者との調整）、BASF ジャパン株式会社（検証実証にかかる資材、機材の提供）

関連事業名と役割	
県実施方針上の関連項目	1-(3) 先端技術の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援 1-(4) 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援
地域基本方針上の関連項目	1-(3) 先端技術の導入による農業経営の効率化の推進 2-(1) 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援

中間評価表（様式１）

課題NO.３・環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立・令和７年度～８年度
担当チーム員：◎阿部定浩、宍戸嘉克、遠藤弘樹、加茂純子、畠山清陽　　記述者：阿部定浩
対象名及び対象者数　環境負荷軽減型水稲乾田直播栽培に取組む生産法人２法人

８月中間評価

（１） 活動指標：普及活動の進捗状況等（月次活動計画の進捗度）

① 担当班及び進行管理責任担当者　宍戸　嘉克
② 合計総現地活動日数（７７日／内計画日数４７日）
③ 活動指標ごとの活動日数
・施肥および除草体系の検証（３７日／内計画日数２１日）
・省力化技術の導入・活用支援（４０日／内計画日数２６日）

（２）成果指標：定性的目標及び所見

＜設定した目標＞
・環境負荷低減型の水稲乾田直播栽培技術が確立し、対象者の作付拡大の意欲が高まる。
＜設定した目標に対する所見及び課題＞
（施肥および除草体系の検証）
・対象者は、R6年11月に新たに設定された「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」の乾田直播栽培の基準（県慣行栽培に対して農薬成分数1/2以下（10成分以下）及び化学合成由来窒素1/2以下（6kg/10a以下）での栽培）での栽培に初めて取組んでいる。
・この基準では、肥料の散布量が限られることから、ほ場の地力の違いによる生育差に合わせて肥料の散布量を加減する可変施肥を行うことが、収量・品質の安定につながる
・施肥方法の検証は、R7年度では、ほ場を合筆したことによる生育差を改善するため、地力の違いに合わせて基肥を可変施肥したが、生育後半の肥料切れ等により可変施肥の効果以上に地力差が大きかった。
・このため、R8年度では、基肥は均一散布とし、生育状況に合わせて追肥を可変施肥する方法を実施した。今後、収量調査を行い可変施肥による追肥の効果を確認する。
・除草体系は、R7年度では、除草剤の散布タイミングが合わず、また、漏水による除草剤の効果が不十分となり、ノビエやクサネムが残草した。
・このため、R8年度では、有効積算気温からイネの出芽期を予測し、除草剤の散布適期を算出する方法の指導と使用する除草剤を提案した。また、播種前の鎮圧を丁寧に実施し、漏水が改善されたことで、湛水後の除草剤の効果が十分に得られ、雑草の発生は抑えられた。

（省力化技術の導入・活用支援）
・Ｒ７年度は、省力化を図るため、リモートセンシングを活用した栽培支援システム（ザルビオ）を活用し、トラクターによる可変施肥を行った。
・R8年度は、更なる省力化を図るため、対象者が自らドローンへのデータ転送・肥料散布の設定やデータ入力、ほ場マップ（地力、植生、生育）の閲覧設定などが行えるよう支援した。
・ほ場を合筆したことによる生育差を改善するため、ザルビオの地力マップを基にドローンによる可変施肥での追肥を実施し、生育の均一化を図った。
・なお、引き続き、ザルビオのほ場マップの画像と生育調査のデータを比較し、システムの有意性を確認するとともに、労働時間等を調査し省力化の効果を確認する。
・また、対象者が自らドローンによる可変施肥を実施できるよう支援する。

（３）今後の対応・月次活動計画の見直し等

（施肥および除草体系の検証）
・収量・品質調査を行い、対象法人へ調査結果のフィードバックを行う。また、２年間の栽培管理方法の評価を行い、栽培指標に反映させる。
・対象者および関係機関と意見交換を行って、栽培指標を作成する。
（省力化技術の導入・活用支援）

・収量、品質調査を行い、可変施肥追肥による影響について評価を行う。
・省力化技術の導入、活用へ向けた勉強会等を開催する。

月次活動計画の見直しの必要性（　有　・　(無)　）
※見直しの必要性がある場合は、見直した月次活動計画を添付する。

（4）対象からの意見及び評価

・イネ出芽予測のおかげで除草剤の適期散布ができた。除草剤の特徴を知ることができた。また、ほ場の水持ちを良くすることで雑草を抑え込むことができた。（(有)かわつらグリーンサービス）
・栽培管理システム（ザルビオ）と生育調査結果を照らし合わせてみることにより、生育状況が分かりやすいと感じた。（(農)SK美野里農産）
・いままで、ほ場の地力に合わせて感覚で施肥量を変更していたがデータに基づいて行うことで、順調に生育していると思われる。（(有)かわつらグリーンサービス）

30　環境と高温に適応した施設園芸展開事業

事業目的

県では、園芸産出額の増加に向け、大規模経営体に対し高度環境制御技術導入等の取組支援を進めています。一方で、施設園芸の発展に向けては、昨今の情勢から夏季高温対策とCO2削減等の環境負荷低減に対する取組（以下、高温・環境対策）が喫緊の課題となっているため、主に中小規模経営体を対象に、「みやぎグリーン戦略プラン」や「みどりの食料システム法」に基づいた新たな施設園芸を展開し、県内への普及拡大を図ります。

事業効果

	予定期間内総計	R8年度
CO_2削減効果（t-CO2）	－	－
その他指標（検討会参加人数）	150人	30人

事業内容

新たな施設園芸の展開に向けた推進事業【8,527千円】

（１）地域検討会の開催と地域版施設園芸の構築・評価（仙台、石巻、登米地域）【園推課：3,485千円】

高温・環境対策を組み込んだ各地域版施設園芸構築のための意見交換と現地実証(経済性や効果等の評価)

経営体、市、JA等
※情報提供・アドバイザーなどで農園研も参画

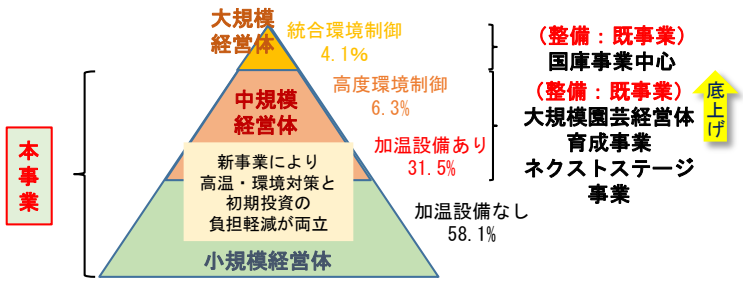
（２）効果的な資材活用手法の検討と県版施設園芸の構築・評価【農園研：5,042千円】

資材活用手法試験の結果・知見については随時情報提供

※本事業で対象とする予定の高温対策及び環境対策の主な設備や資材は以下のとおり

１：高温対策（設備）細霧冷房装置、外気導入設備（強制換気装置）、ミスト散水、屋根断水装置 等
（資材）遮光・遮熱資材、遮光カーテン、赤色防虫ネット 等

２：環境対策（設備）CO2削減（バイオマス加温機、ヒートポンプ）等
（資材）廃プラ削減（生分解性マルチ）、廃棄リサイクル長期化（長期展張フィルム）等



施設設置面積：1,079ha

（千円）	R8	R9	R10	R11	R12
事業費	8,527	8,527	8,527	8,527	8,527
内、みやぎ環境税	**8,513**	8,513	8,513	8,513	8,513
内、国費					
内、一般財源					
内、その他	14	14	14	14	14

※Ｒ９～Ｒ１２は予定であり、事業実施は未定です

事業実施予定期間

取組内容	R8	R9	R10	R11	R12
推進事業	←―――	―――	―――	―――→	
展開事業	←―――	―――	―――	―――→	

担当：農政部 園芸推進課 先進的園芸推進班

事業の流れ（案）

1　地域検討会の開催及び現地実証ほの設置・運営

年１～２回程度開催

(1)対象地域及び作物

仙台地域：いちご

石巻地域：トマト

登米地域：きゅうり

(2)参集範囲

県（園推課・普及セ・農園研）

市町村、JA、園芸経営体 等

(3)地域検討会～高温問題及び環境対策について～

・地域における施設園芸の課題、状況把握

・問題解決に必要な設備や資材の検討

(4)地域現地実証ほの設置

・地域検討会で決定した設備や資材を導入

・栽培管理は生産者（栽培中の訪問実施）

・導入前と導入後の収量や売上げ等で評価
（効果に関する生産者の「感覚的なもの」等も聞き取り

・地域により設備や資材の組み合わせは様々

・資材等導入費　地域あたり上限1,000千円を想定

2　農園研における試験研究

(1)農園研における試験研究及び資材の設置

①各種資材の効果的な活用手法の検討

②県版施設園芸の構築
（効果的な組み合わせ等の検討）

各種資材に関し得られたデータは随時提供

3　全体検討会の開催

(1)参集範囲

県（園推課・普及セ・農園研）

市町村、JA、実証圃経営体

その他園芸経営体 等

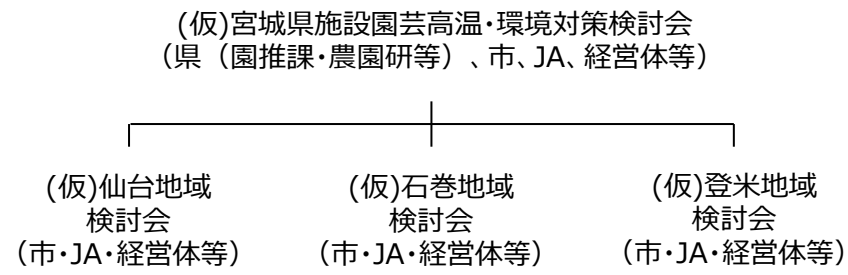
(2)検討内容

・各現地実証ほにおける評価等の報告

・農園研における研究成果等の報告

・次年度に向けた課題及び対策等の検討

（参考）事業実施体制のイメージ



地域や県内の中小規模園芸経営体への
横展開についても促進

担当：農政部 園芸推進課 先進的園芸推進班

ReduSystems®



ReduHeat®

「遮熱」に特化した塗布剤
果菜・花卉類の高温対策に

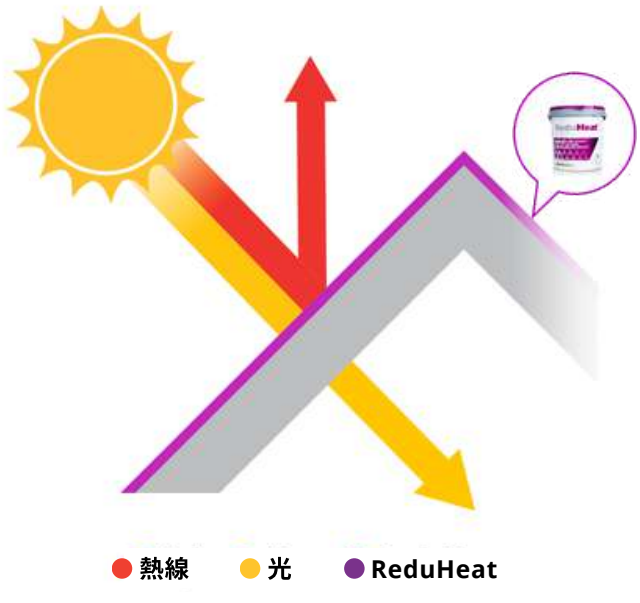


春・夏の温度を下げたい・・・
でも過度な遮光はしたくない
そんなお悩みはありませんか？



ReduHeat（レディヒート）

ハウス屋根に吹き付けて使用する
塗布剤です。春や夏の高温からハウス内
の作物を守り、生育を改善させます。
「光合成に有効な光」を多く透過して
「熱線(赤外線）」を多く反射します。
春や夏の過酷な環境を、作物にとって
成長しやすい環境に変える手助けをしま
す。



高い光透過率を活かして生産性UP！

ReduHeatは光要求度の高い作物での使用が適しています。
果菜類（トマト・パプリカ・キュウリ）や花卉類（バラ等）での使用がおすすめです。

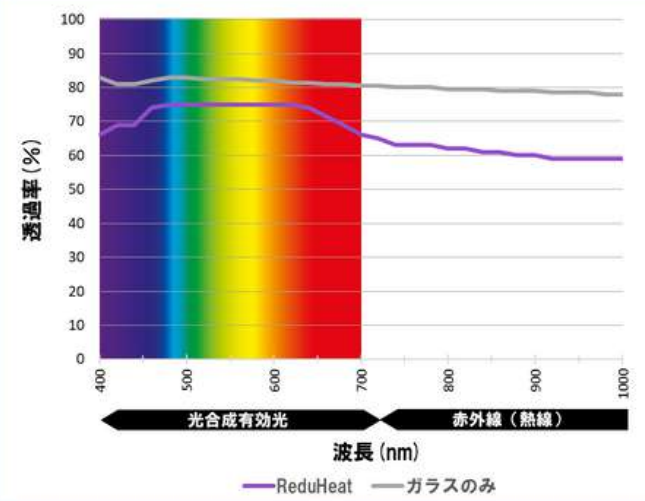




ReduHeatの特徴

特徴①
「熱線」の反射に特化

ReduHeatは熱線を多く反射する塗布剤です。植物が光合成に必要とする光は多く透過します。通常、ハウス温度を下げるために遮光を行うと、本来必要な「光」についても遮られてしまいます。ReduHeatは、ハウス内の光の量を保ちながら、ハウス内の温度を下げることができます。



特徴②
雨に強く、長期間持続

ReduHeatは雨に強く、長期間にわたって効果を発揮します。使用濃度や降雨量によって変動しますが、3～5か月にわたって高温から作物を守ります。梅雨やゲリラ豪雨の心配をすることなく、幅広い期間にわたってご使用いただくことができます。



ご使用方法

01 機材の準備

希釈用タンク、動力噴霧器、水を準備します。

⚠ 新品のフィルムに吹き付けを行う場合、フィルムが塗布液を弾いてしまい被膜が綺麗に形成されない場合があります。

⚠ 作業時や塗布後の乾燥中に降雨が予想される状況での塗布作業はお控えください。（塗布後半日程度で乾燥します）

02 希釈・攪拌

ReduHeatの使用数量を決定し、下記の表の希釈倍率に従って
水で希釈後、念入りに攪拌を行ってください。
※レディヒートは1缶あたり約13Lです。

2.5缶/10aがおすすめです



使用缶数（10aあたり）	遮光率	遮熱率	希釈倍率	水（1缶あたり）
3.5缶/10a	16%	30%	1：3	40L
2.5缶/10a	13%	24%	1：4	52L
2.0缶/10a	10%	20%	1：5	65L

ポイント 攪拌が不十分な場合タンクの底にReduHeatが沈殿し詰まり等の原因になります。攪拌は入念に行ってください。

03 散布

動力噴霧器を使用して、ハウスの屋根にReduHeatを吹き付けます。

04 機器の洗浄

塗布作業後は動力噴霧機・ホース内の洗浄を行うために、50～100Lの水を出し続けてください。

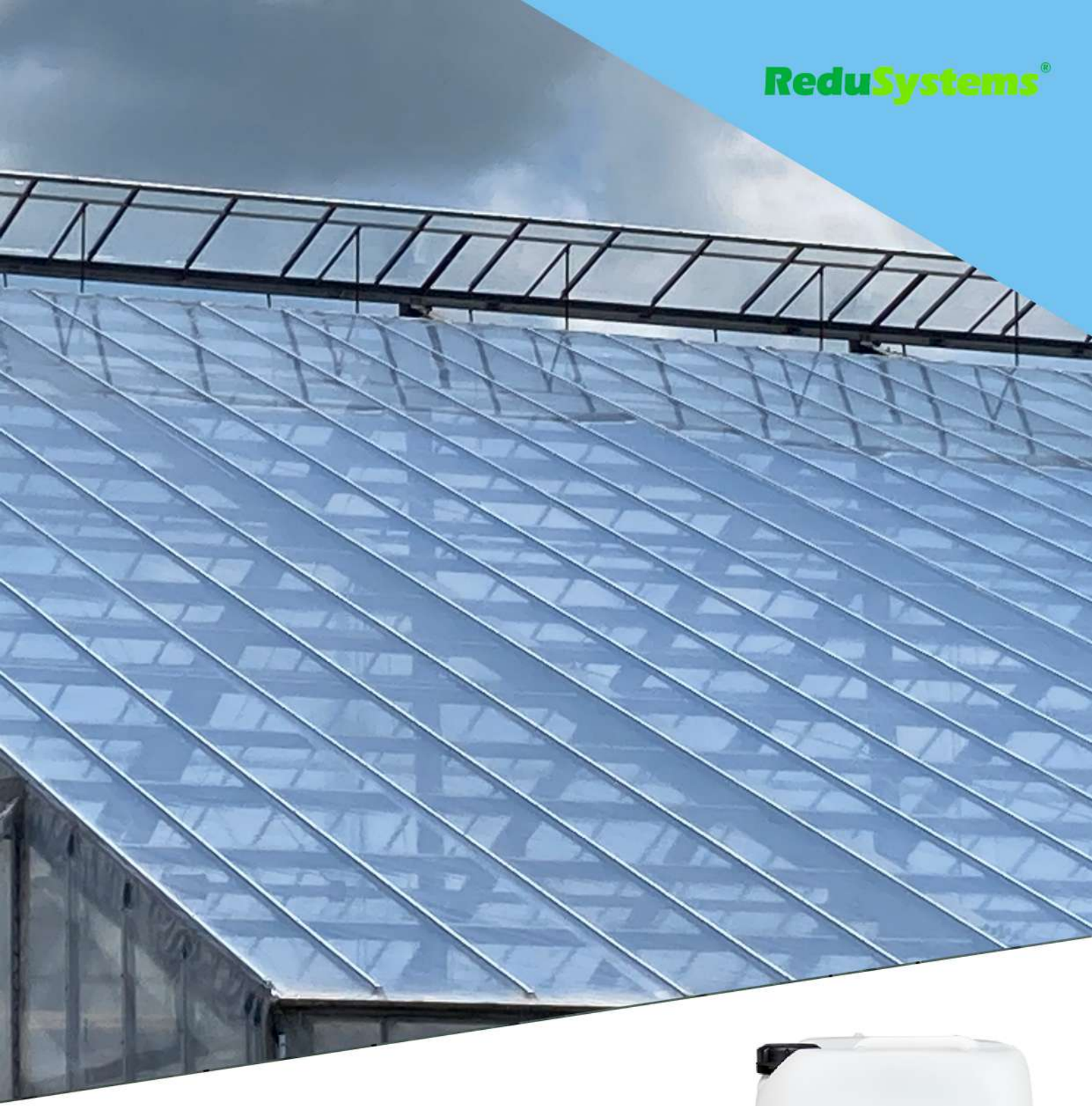
/誠和アグリカルチャ

動画で散布の手順を解説中

誠和アグリカルチャ公式YouTubeチャンネルにて
塗布剤の使い方について紹介しております。右記QRコードよりご覧ください。

株式会社 誠和アグリカルチャ 〒329-0412 栃木県下野市柴262-10 TEL：0285-50-2030 FAX:0285-44-5271

ReduSystems®



ReduClean®

Redusystemsシリーズ専用の除去剤
屋根の汚れを落とし光透過率を向上

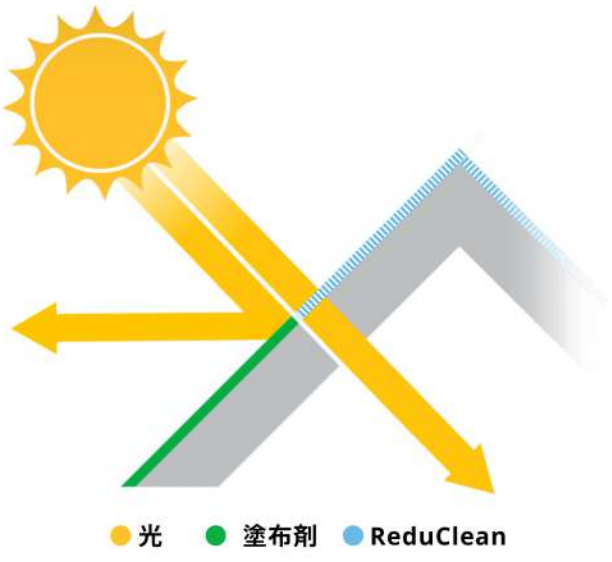


屋根面に残った塗布剤と汚れを綺麗にに落として秋・冬の光透過率を向上させる



ReduClean（レディクリーン）

ReduCleanはRedusystemシリーズ専用の除去剤です。塗布剤を完全に取り除き、屋根面を綺麗にします。レディクリーンの散布後に、ブラシで擦ったり拭き取ったりする必要はありません。散布後の降雨によって、塗布剤や屋根面の汚れと共に流れ落ちます。



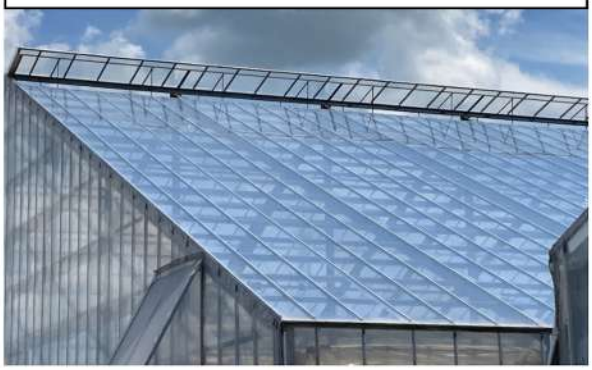
9-10月頃のご使用がおすすめ

遮光・遮熱が必要な時期(4-9月)以降は、ハウスの光透過率が重要です。冬場の光透過率は作物の生育と収穫量に大きく影響します。ReduCleanを散布しハウスの屋根を綺麗にすることで、秋冬に向けてハウスの光透過率を適切な状態に近づけることができます。

散布前



散布後



ReduCleanの特徴

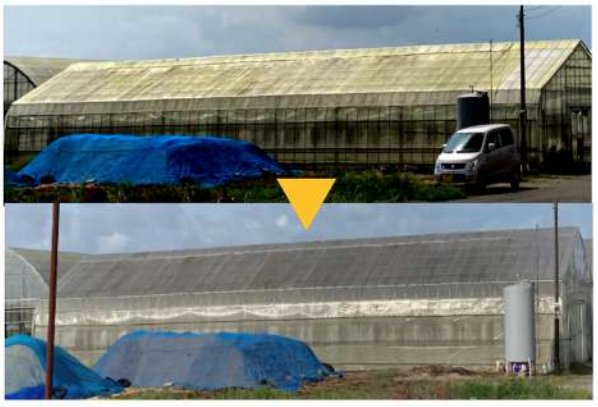
特徴①
こすらずに簡単除去

ReduCleanの最大の特徴は、散布後に屋根面をブラシ等でこする必要がないという点です。散布後の降雨によって屋根面の塗布剤を除去することができます。屋根洗浄の省力化になるだけでなく、フィルムに傷がつかないため、フィルムの耐久性を損なうこともありません。



特徴②
屋根面の汚れにも効果が？

ReduCleanを使用したことによりハウス屋根面の汚れが綺麗になったというお声を多く頂戴しています。汚れの種類によって、洗浄の効果が大きく異なりますので、ご使用前にハウスの一部分でお試しいただくことをおすすめいたします。



ご使用方法

01 機材の準備

希釈用タンク、動力噴霧器、水を準備します。

02 希釈・攪拌

推奨使用量：800㎡あたり1缶
ReduClean1缶に対して、140Lの水で希釈を行ってください。
念入りに攪拌を行ってください。
※ReduCleanは1缶あたり約20Lです。



ポイント

ReduCleanをタンクに入れる前に必要な水を溜めておくと
タンク内の泡立ちを抑えることができます。

03 散布

動力噴霧器を使用して、ハウスの屋根にReduCleanを吹き付けます。





04 機器の洗浄

塗布作業後は動力噴霧機・ホース内の洗浄を行うために、50～100Lの
水を出し続けてください。

株式会社 誠和アグリカルチャ 〒329-0412 栃木県下野市柴262-10 TEL：0285-50-2030 FAX:0285-44-5271